

～ 花は 花は 花は咲く いつか生まれる君に
花は 花は 花は咲く わたしは何を残したろう ～

誰もが息をのんだ東北大震災の映像。
あれから10年。復興は、まだ道半ば。

まさか、10年後の世界中が、感染症に翻弄されているとは思っていませんでした。

コロナからの復興！ 花は咲く！



そして、今、

全日本アドの「花」は、どう咲こうとしているのか。

全日本アド連「法人化について」

全日本アド連・鳥取アド連 顧問に伺いました。

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
顧問 山本 邦彦

全日本アド連では、令和2年度の紙上総会(神戸で開催予定がコロナ禍のため紙上総会となった)で、法人化を目指して検討することが決定され、現在、法人化・組織対策委員会で検討が続けられている。峠会長を委員長に11名の委員で構成して、昨年11月の理事会にその経過を報告した。協議の結果、回答者が少なかったこと、重要な問題であり、全都道府県アド会からの意見を伺うことになり、検討委員会の調査用紙と同じ内容を、Eメールで連絡できる都道府県はEメールで、それができない所は郵送で調査。コロナ禍の為、集まることが出来にくいと判断し、第1次回答期限を2月10日(2月理事会に報告の為)。第2次回答を3月末(4月理事会に報告の為)としてご意見を伺った。14道府県会長と2人の3号会員から回答を頂いた。鳥取県からも回答を得たが、非常に回答者が少なかったようで、中々自分が所属する組織の事なのに、自分の意見を持たない会員が多い事が気になった。清水成真さんから、鳥取県の意見を代表しているような意見書を頂いているので、これを紹介させていただきたい。成真さんの意見をはじめ全国の道府県会長からのご意見は4月の理事会で協議し、6月の総会で報告し、3年度の運動方針や事業計画で、今後の取り組み内容が示される予定である。

全日本青少年育成アドバイザー連合会の 法人化について



意見書

清水 成真

全日本青少年育成アドバイザー連合会の法人化について、私の意見を述べたいと思います。

最初に、私は法人化することについては「賛成」です。

しかしながら、下記の理由で、早急に法人化する事には「反対」です。

1. 全日本青少年育成アドバイザー連合会の未来の設計図が見えません。

法人化することが、目標になっているような気がしません。そうではなく、法人化したあと、どのようにしていくのか。今、早急に法人化しなければならないのか？中・長期的な戦略計画が必用ではないでしょうか。全日本青少年育成アドバイザー連合会の将来像をきちんと見える形にし、将来像の目標に向かうためには、何が足りないのか、そしてそのためには、この目標値が達成できれば「法人化」する必要がある。そのような中期・長期の戦略計画を立てることがまず必用だと考えます。

2. 財政の問題

「法人化」すれば、事務所や事務局員など、必然的に必要な経費が出てきます。現在の予算では、全く話になりません。収入源は「会員の会費」であり、1号会員と、3号会員で頂いています。問題は2号会員ですが、「法人化」したあと、一体どのくらいの予算が必用なのか全くわかりません。そのためには、2号会員の会費が必要になります。現在の会員数は、1300人となっていますが、本当にその人数が会費を支払って頂けるのかも不明です。会費が負担になれば、退会する方もあると予想しなければなりませんし、高齢化が進んでいる中で本当に難しい問題だと思います。養成講座を続けて、中・長期計画の中で「法人の維持」には何人の会員が必用なのか、明確

にする必要があります。

3. 法人維持の労力

ご存じのように、法人は人格を持つことにより、さまざまな恩恵を受けることは予想できることです。信用度も高まります。しかし、現在の全日本青少年育成アドバイザー連合会で、それを維持し運営していくためには、相当な力が要ることでしょう。その力を、現在の全日本青少年育成アドバイザー連合会が持っているのかどうか、再検証するべきだと思います。

以上、「法人化」する事には賛成ですが、さまざまな問題をクリアにしていく必要があると考えます。中・長期計画を立案し、これに沿って「法人化」を進めてはいかがでしょうか。



「桜の中で思うこと」

清水 成眞

コロナ禍のなか、会員の皆さんも大変な日々を送っておられると思います。

今日は4月1日、就職や進学、人事異動などで新しいスタートに立った人も多いでしょう。

三徳山では、それを祝うかのように「みとく桜」が咲き誇っています。例年より、二週間以上早い開花でビックリしています。

今回のテーマは、「花」と言うことでした。「花」なのか「華」なのか、迷いました。「華」は華麗や豪華絢爛などの言葉から「きらびやか」なイメージがあり、女の子の名前によく使われます。

しかし、依頼者のイメージは「花」なのだろうと思います。「山」といえば、広辞苑でも「比叡山」と書いてありますが、「花」といえば、広辞苑には「梅または桜の花。平安後期以降は桜の花。」とありました。

三徳山には「みとく桜」という品種があり、桜の品種名としては 御車返し とのことです。御水尾天皇が 御車に乗ってこの桜の前を通りかかった時そのあまりの美しさと、この桜が一重咲きの桜なのか、八重咲きの桜な

のかを確かめるため乗っていた御車を引き返させたことから御車(みくるま)返しの桜と呼ばれているそうです。

花で思い出したのが、昨年1月に千葉県市原市で虐待により死亡した生後10カ月の小西紗花(すずか)ちゃんです。逮捕容疑は1月3～25日ごろ、当時住んでいた千葉県市原市ちはら台のアパートの一室で次女の紗花(すずか)ちゃんに食事を与えず、適切な医療措置を受けさせることなく放置しました。

当時、紗花ちゃんに目立った外傷はなく、低栄養と脱水による衰弱死とみられていました。その後、母親は逮捕されています。

この事については、行政の責任も問われました。紗花(すずか)ちゃんが通っている保育所の保育士が異変に気づいて市原市へ通報していましたが、市原市は「外部から家庭の異変を疑わせる情報はなく緊急性は高くないと判断した」として、紗花(すずか)ちゃんの所在確認や児童相談所への連絡等を行っていませんでした。

いろいろなことが重なって、このような事態になりました。これまでも、紗花(すずか)ちゃんのような虐待が後を絶ちません。

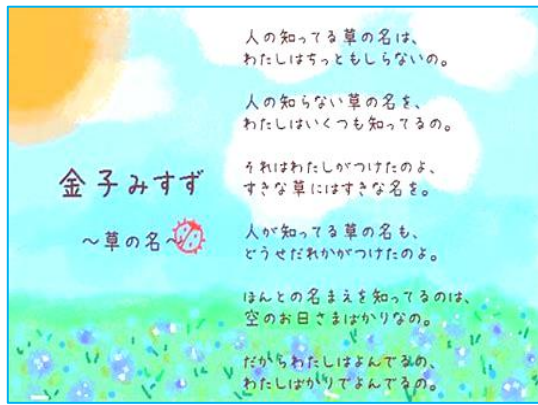
私たちの研修会でもこのような事件を私たちが、どのように考えて、どのような行動をし、または行政に対して提言していく等の研修をやってもいいと思います。

桜の花びらが、ひらひらと散っていくように、私たちの命も同じように散っていきます。子ども達の命を救うために、今、どんなことが出来るのか考えてみるのもいいと思いました。

夜桜が、とても綺麗です。紗花(すずか)ちゃんに送ります。



そういえば、桜の花びらは、うす絹(紗)のようです。
「うす絹の花・紗花」と書いて「すずか」
桜は、すずかちゃんの花…
この写真がすずかちゃんに届きますように。



「おやぶん」「こぶん」

裏の崖に茂る「はこべ」。その傍に、はこべによく似た、はこべよりも小さな白い花を咲かせる雑草があります。よく見ないと気づかない小さな小さな花で、毎年、そこらあたりに生えてきます。

娘が中学生の頃、この花なあに？と聞いてきました。「そっちは、はこべ」「こっちは、……う～～？？？」知らない草。「そうだ、そっちは、おやぶん。こっちは、こぶんよ。」思わず出た嘘っぱちの名。「『おやび～ん、もう咲いちゃってるんですか～、ぼくも咲きますよ～。』『お～、こぶん、まだ咲いてなかったんか、早く咲け、咲け』って言ってるんじゃない？」と言ってごまかし、大ウケしてしまいました。はこべにまとわりつくように生えてる小っちゃい白い花は、兄弟分みたいでしたから…。ちょっとだけ、嘘っぱちの罪悪感がありました。が、その時とっさに思い出したのが、あの、みすずさんの詩の一節でした。

「人が知ってる草の名も、
どうせだれかがつけたのよ。
・
・
だからわたしはよんでるの、
わたしばかりでよんでるの。」

これでいいのだ！
それ以来、裏の崖のはこべと、その傍に蔓延る(はびこる)草は、おやぶん・こぶんと呼ばれる羽目になっております。
どなたか、「こぶん」の正式名称をご存じの方、どうか教えてください。(by うそつきなハハ)



おやぶん



こぶん

～ こんな店 見つけた！ ～

第3報 花だより

手打ちそば&カフェ 暖

花より団子、花より蕎麦！

東伯郡湯梨浜町田後



店先のピンクの八重咲こぶしの花
満開です!!



桜の花びらが練りこんである
桜そば
お塩でいただきます。

お待ちしております。
あなたが知ってる「こんなお店」
あなたが会った「こんな作品」
あなたがそっとしまってる「こんな思いで」
できれば、簡単なメッセージや感想も添えて
感動をシェアさせていただきませんか？

みなさまへお願い！
あなたへの「鳥アド通信」の届け方をお知らせください。ご希望を伺います。
1. 紙面で郵送
2. メール送信
3. メール送信と紙面で郵送

uejima@bronze.ocn.ne.jp あるいは

090-6830-5486 植嶋まで、早急に！！

～ 編集後記 ～

花のみ 待つらむ人に 山里の 雪間の草の 春を見せばや

山里に嫁いできて、しみじみと思い出し、いつそう好きになった和歌です。街中で感じる「春」は、咲き始める花かもしれませんが、この山里で感じる「春」は、小さく芽吹く足元の草、です。
おかげで…春を待ちわびるとき、うすやわらかな日差しを見上げるのではなく、庭の梅の枝を見上げるのでもなく、いつまでも硬い根雪の隙間を見下ろすのが癖になってしまいました。
春を待つ視線は下向き！ ベクトル下向き！ ああ…なんだか陰ですねえ…？ 花ばかりを愛でるなかれ、山では、春＝雑草なのです。
いつまで続くのかと思うコロナ禍の重苦しい空気。でも、どこかに、小さな光がのぞいているのでしょうか。小さな光を愛でて「日常」を待ちましよう。いつか必ず春はくる！